



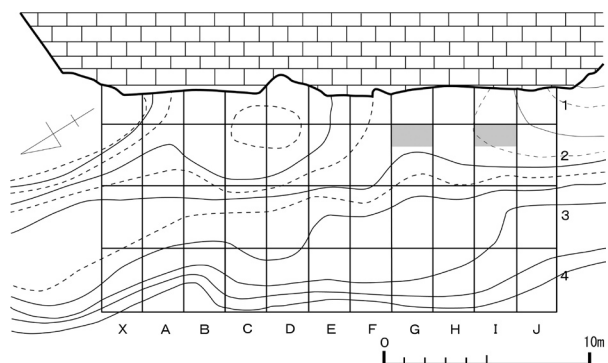
2005 年度帝釈峡遺跡群発掘調査 I 期（8 月 5 日～ 12 日）の成果

久代東山岩陰遺跡（くしろひがしやまいわかげいせき）

今年度の調査目標は、まだ調査されていなかった F・G・I 区の調査を部分的に行い、遺跡全体の土砂や層の堆積の様子を確認することです。本遺跡は今年度で調査が終了する予定なので、調査されていなかった地区を調べることで遺跡の全体像や性格、つまり遺跡での居住の様子を把握し、その後どのようにして土砂が堆積したかなどを確認します。

今期は I 期ということで、調査を開始する前に、遺跡周辺の草刈りや、川の水を利用して発掘した土壌を水洗して小さな遺物が残っていないかを確認する、水洗作業のための水洗場作りを行いました。また、今回新しく調査する調査区の回りをきれいに清掃し、調査を行える状態にしました。現在、G-2 区と I-2 区の発掘・水選作業を行っており、これまでに土器片が 100 点ほどと石錐（いしきり：皮などに穴をあけるための石のきり）、また現在も帝釈峡の辺りにたくさん生息しているカワナナなどが見つかっています。今回の発掘調査は F・G・I 区という三つの調査区を調べなくてはならないので、例年以上に素早く、また正確に発掘作業を行わなくてはなりません。

しかし、思っていた以上に遺物が出土し、作業が少し遅れています。今期の遅れを残りの 2 期間で取り戻せるよう、より素早く、正確な作業を心がけるつもりです。
（白根明樹・中村匡成）



久代東山岩陰遺跡調査区配置図

（網掛け部が I 期の調査区）

コラム 1 帝釈峡の雨男

真夏の炎天下で発掘調査を進めている帝釈峡遺跡群は、山奥ということもあり、大変天気が変わりやすい場所でもあります。昨年と今年と発掘調査に参加している私は、大変暑い中で作業をしていますが、夕立や通り雨にあうことが多く、ひどいときには台風なんてこともあります。調査期間以外ではあまり雨に出くわすことはないのに、帝釈に来ると雨ばかりという印象があります。私は小さい頃から、何かしらの行事の日には雨が降っていて、雨男なのではという思いがありました。実際、帝釈峡調査での雨具合をみると雨男としか思えず、申し訳ない気持ちになります。他にも、自分が雨男、雨女だという人もいますが、帝釈峡遺跡群で良い調査が出来るように、みんなで、ただ晴れることを祈るばかりです。

(中村匡成)

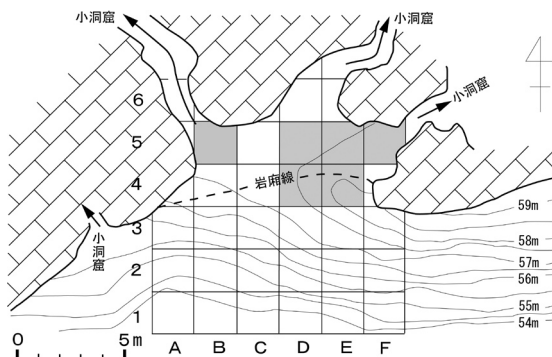
帝釈大風呂洞窟遺跡（たいしゃくおおぶろどうくつせき）

帝釈大風呂洞窟遺跡は帝釈観音堂洞窟遺跡の約 50 m 直上にある遺跡で、1984 年に発見され、1996 年から毎年調査が行われています。

洞窟は南に向かって開口しており、幅約 11 m、高さ約 3 ～ 3.5 m、奥行きが約 4 m となっています。また、少し狭いですが、人が入れる程度の、奥に続く穴もあります。昨年までの調査により、この洞窟が使用された時期は古代・中世（約 400 ～ 1300 年前）と縄文時代の後期（約 3000 ～ 4000 年前）・前期（約 5000 ～ 6000 年前）・早期（約 7000 ～ 10000 年前）と考えられています。中世と古代の遺物としては土鍋や皿・火打金・宋銭などが出土しています。縄文時代の遺物としては土器や石鏃（石の矢じり）・石錘（魚とり網のおもり）・貝製の腕輪・貝類・動物の骨などが出土しています。

現在、私達は古代・中世の層である第 2 層の調査をしています。今年の目標は、去年に引き続いて中世における本遺跡の利用法を探りながら第 2 層全体を掘り進め、縄文後期の層である第 3 層へ到達して縄文後期における遺跡の使われ方を探ることです。今のところ、中世のものと思われる炉跡（たき火あと）など生活の痕跡を検出しており、中世での遺跡の利用法を探る鍵になると期待しています。できるだけ早く縄文時代の層に到達し、遺跡の利用状況を古代・中世でのそれと比較しながら調査を進めて行きたいと思います。

(新秀文・山手貴生)



帝釈大風呂洞窟遺跡調査区配置図

(網掛け部が I 期の調査区)

コラム2 食事当番の仕事

食事当番（以下、食当）はその名のとおり、調査員の食事の準備をする当番のことです。食当とはいっても単に三食の準備だけをすれば良い訳ではなく、宿舍の掃除・洗濯などの生活に関することや、前日に出土した遺物の整理も食当の仕事です。つまり、現場に出ている人たちが安心して作業できるようにする裏方に徹すること食当の仕事なのです。そのため、仕事はかなり多く、下手をすれば1日を家事や遺物の整理に追われて過す事になります。しかし、仕事が終われば調査員が帰ってくるまで自由時間ですし、慣れてくると仕事を効率よく短時間で済ませるようになります。そうなってくると、食当は土日のない発掘期間中での貴重な休日にもなります。私はそうやって空いた時間は宿舍の周りを散歩することにしています。連日の調査での疲れを帝釈の自然の中をのんびり歩くことでリフレッシュし、翌日以降の調査に気持ちよく臨めるようにするのです。

（山手貴生）

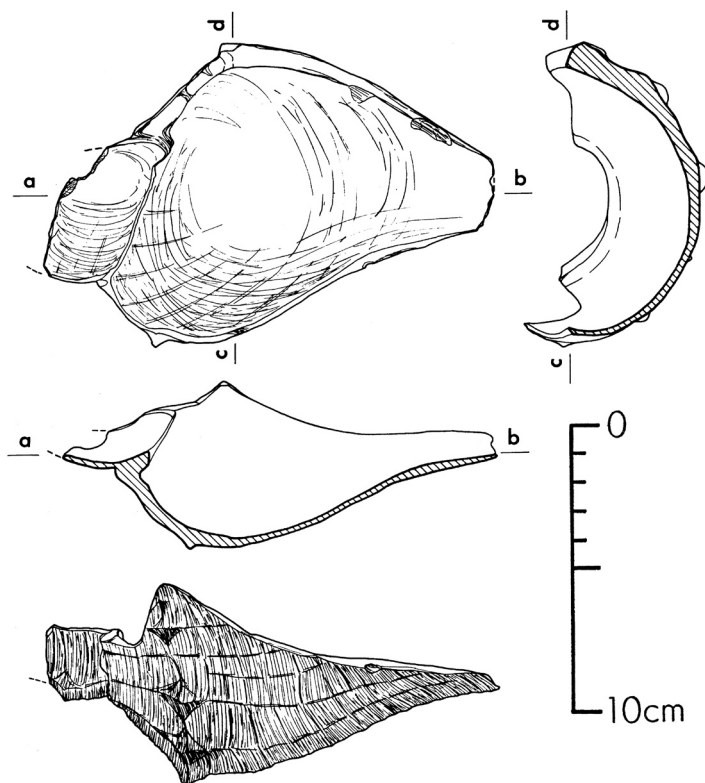
コラム3 石器の勉強会

今年から夜に宿舍でおこなっていたミーティングがなくなりました。『各自で目標をたてて勉強する。』という目標のもと、様々な取り組みが行われています。我々大風呂班の学部生は、展示遺物を使った勉強会らしきものを行っています。みんなで遺物を見ながら好き放題意見を闘わせていますが、気にしません。実際の遺物に触れて活発に意見交換することこそが、重要だと思うからです。それに分からない点や間違った点は、院生さんや先生方が丁寧に指導してくれます。また、それとは別に竹広先生による石器の勉強会も開かれました。遺物に触りながらの講義で、分からないところがあると分かるまで丁寧に教えてくれました。この宿舍には展示されている資料以外にも多数の遺物が保存されています。Ⅰ期だけではすべて見ることは難しいので、Ⅱ・Ⅲ期も続けていこうと思います。

（新秀文）

帝釈峡遺跡群の遺物あれこれ

今号で紹介する遺物は、1964（昭和39）年6月の帝釈馬渡岩陰遺跡の予備調査の際に出土した貝製品です。時期については明確にはなっていません。殻長200mm、殻径100mm以上のテングニシのおよそ2分の1を打ち欠いて作ったひしゃく状の貝杯です。殻頂部・水管部・外唇部などは打ち欠かれており、現存長が155mm、径が102mmです。打ち欠いた周縁部はよく研磨されており、平滑な面をつくっています。殻表もわずかに研磨されているが、螺肋や肩角上の結節は顕著に見られます。殻内面は石灰分が多く付



帝釈馬渡岩陰遺跡出土の貝杯実測図

着しており、殻の保存状況も良好です。(引用・参考文献：潮見浩ほか1979『広島大学文学部帝釈峡遺跡群発掘調査室年報Ⅱ』広島大学文学部帝釈峡遺跡群発掘調査室)

・人物往来

広島大学理学研究科 狩野彰宏先生 (8月9日～11日)

〃 大学院生 川合善也さん (D2生)、堀真子さん (M2生)、
岡田悦郎さん (M1生) (8月9日～11日)

〃 学部生 東郷徹宏さん、大森一人さん (以上4年生)

(8月9日～11日)

愛知教育大学教育学部 河村善也先生 (8月5日～7日)

〃 学部生 杉浦景子さん (4年生)、深津美早さん (4年生) (8月5日～8月12日)

京都大学人間・環境学研究科大学院生 石丸恵理子さん (D4生) (8月6日～12日)

奈良大学学部生 原田博志さん (4年生) (8月6日～9日)

・参加者名簿 (I期 8月5日～11日)

広島大学文学研究科 教授 古瀬清秀

〃 助教授 竹広文明

〃 助教授 野島永

〃 大学院生 加藤徹（D3生）、石貫弘泰・今井千佳子・塩冶琢磨・順田洋一・
須崎瀬里奈・永田千織（以上M1生）

広島大学文学部学部生 新秀文・白根明樹・中村匡成・山手貴生（以上3年生）

河戸翔陽・久野陽香・辻村哲農・中川志保美・真部明子・吉武幹雄

（以上2年生）

・陣中見舞い

弥生食堂藤井さん 野菜

明賀勅枝さん 奈良漬け、梅干

京都大学 石丸さん お米、コーヒー

愛知教育大学 河村先生・杉浦さん・深津さん 水羊羹、ビール

広島大学 上倉さん・工藤さん お菓子

ありがとうございました。

本年度は8月6日～11日、18日～25日、27日～9月3日までの3期間、東山・大風呂の両遺跡で発掘調査を行う予定です。お気軽に遺跡まで見学に来てください。遺跡に見学には、山登りおよび川を渡る服装でお越し下さい。

（編集 石貫・加藤）

